

## 2. 流域及び河川の自然環境

### 2-1. 流域の自然環境

後志利別川流域は、ブナを代表種とする温帯林の北限とエゾマツ分布の南限である黒松内低地帯の南西域に位置し、北海道の中でも最も植物種の多い地域である。ブナは、上流部の美利河二股自然休養林付近に原生林として見られ、また、ブナを含んだ混成林は山岳地帯でよく見ることができる。

流域の動物は、山岳地帯ではヒグマやクマゲラ、平地から河口にかけてはキタキツネやオジロワシ、ミサゴ等が見られる。また、魚類ではウグイ、フクドジョウ、イバラトミヨが見られるほか、サケ、サクラマス、アユ、カワヤツメ等が遡上する。

貴重種は、天然記念物に指定されているオジロワシやクマゲラなどの鳥類や、環境省レッドデータブックで絶滅危惧 IA 類に指定されているエゾキンポウゲなどの植物が確認されている。



山付の崖地区間



広大な中洲



河口部に分布するハマナス群落



河口部を休息地とするウミネコ



(哺乳類)

平成 12 年度の調査において、哺乳類は兜野橋では 9 種(エゾトガリネズミ、オオアシトガリネズミ、エゾヤチネズミ、アカネズミ、ハツカネズミ、タヌキ、キツネ、クロテンまたはキテン、イタチまたはミンク)が確認されている。トマンケシナイ川合流点では 6 種(エゾヤチネズミ、アカネズミ、クマネズミ、キツネ、クロテンまたはキテン、イタチまたはミンク)が確認されている。志文内橋では 6 種(エゾトガリネズミ、オオアシトガリネズミ、エゾユキウサギ、エゾヤチネズミ、アカネズミ、キツネ、クロテンまたはキテン、イタチまたはミンク)が確認されている。



キツネ

(鳥類)

平成 15 年度調査において、確認種はスズメ目が 54 種(48.2%)と最も多く、次いでチドリ目の 14 種(12.5%)、カモ目の 12 種(10.7%)、タカ目の 9 種(8.0%)、キツツキ目の 6 種(5.3%)、カッコウ目の 3 種(2.7%)、ペリカン目・ハト目・アマツバメ目・ブッポウソウ目が各 2 種(各 1.8%)、アビ目・カイツブリ目・コウノトリ目・キジ目・フクロウ目・ヨタカ目が各 1 種(各 0.9%)の順となっている。確認種は平地から丘陵帯・山地帯に生息する種で構成されており、河口部から下流域にかけては



キセキレイ

カモ類やカモメ類が種数・個体数ともに多く確認されている。特にカモ類は春・秋の渡り期に集中的に多いことから、当該地域を主に渡りの中継地(つまり休憩地)として利用していると推察される。中流域から上流域にかけては、水生昆虫を主な餌とするキセキレイ、セグロセキレイ、カワガラス等が多く確認されていることから、これら餌動物の生息環境及び河川の砂礫や崖、河畔林といった各種の営巣環境が良好に維持されていると推察される。

また、河川敷やその周辺には草地、下流域では一部ヨシ原も発達しているため、このような環境を生息・繁殖場とするオオジシギ、ノビタキ、ホオアカ等の草地性の種、コヨシキリ、オオヨシキリ、オオジュリン等のヨシ原性の種も広範囲に多数確認されている。

(両生類・爬虫類)

平成 12 年度の調査において、両生類・爬虫類は兜野橋では両生類 2 種(アマガエル、アカガエル)、トマンケシナイ川合流点では両生類 2 種(アマガエル、アカガエル)、志文内橋では両生類 2 種(アマガエル、アカガエル)が確認されている。



アマガエル



アカガエル

#### (魚 類)

平成 16 年度の調査において 10 科 24 種類の魚類、および 7 科 7 種類のエビ・カニ・貝類が確認されている。

このうち、スナヤツメ、カワヤツメ、マルタ、エゾウグイ、アユ、ヤマメ、イトヨ日本海型、ハナカジカ、モノアラガイの 9 種類は、環境省レッドデータブックまたは北海道レッドデータブックに指定されている貴重種である。

また、ニジマスは、北海道には元々生息しておらず、移入された種であるが、今後こうした移入種の増加、生息域の拡大が懸念される。

その他、特筆すべき種として、水産有用種であるサケ、河岸植生の指標種であるイバラトミヨが挙げられる。

#### (底生動物)

平成 16 年度の調査において、82 科 144 種類の底生動物が確認されている。出現状況を見ると、上流側の調査地点ほど確認種類数が多い傾向が見られる。

また、底生動物の湿重量についてみると、兜野橋・トマンケシナイ川合流点で少なく、志文内橋地区で著しく多くなっている。これは志文内橋地区では、造網型トビケラのヒゲナガカワトビケラ、およびウルマーシマトビケラ、コガタシマトビケラ属の一種が優占していたことによる。一般的にこのような現象は、河床の安定した河川で見られ、後志利別川上流域の河床が非常に安定していることを示唆している。

#### (陸上昆虫類等)

平成 14 年度の調査において、後志利別川河口部では 80 科 216 種類の陸上昆虫類等が確認されており、イソコモリグモやシロスジコガネなど特徴的な昆虫が多く見られる。

兜野橋では 96 科 307 種類の陸上昆虫類が確認されており、走地性のバッタ類が多く見られる。

トマンケシナイ川合流点では 90 科 300 種類が確認されており、キアシミズギワゴミムシなど河原に見られる種が多い。

志文内橋では 99 科 349 種が確認され、3 地点のうち最も種数が多い。山地や河原に見られる種など幅広い昆虫が見られている。

貴重種はイソコモリグモ、スナヨコバイ、セボシジョウカイ、キバネクロバエ、キマダラモドキの 5 種が確認されている。

表2-1 後志利別川の特定種-1

分類	番号	種名	特定種指定区分			
			天然記念物	環境省レッドデータブック	北海道レッドデータブック	その他
植物	1	ノダイオウ		VU		
	2	エゾノミヤマハコベ		VU		
	3	エゾキンボウゲ		CR		
	4	シラネアオイ			Vu	
	5	オクエゾサイシン			R	
	6	ヤマシャクヤク		VU	R	
	7	ヤマネコノメソウ			R	
	8	トカチスグリ		EN		
	9	オオバタチツボスミレ		VU		
	10	ミズスギナ		EN		
	11	クリンソウ			Vu	
	12	ホタルブクロ			R	
	13	ホロマンノコギリソウ		VU		
	14	カタクリ			N	
	15	ムツオレグサ			R	
	16	タチイチゴツナギ		EN	R	
	17	サヤスゲ		EN	R	
鳥類	1	ヒシクイ	国天	VU	R	
	2	オシドリ			Vu	
	3	シノリガモ			Vu	
	4	ミコアイサ			R	
	5	ミサゴ		NT	En	
	6	ハチクマ		NT	Vu	
	7	オジロワシ	国天	EN	Vu	保存
	8	オオタカ		VU	R	保存
	9	ハイタカ		NT	En	
	10	ケアシノスリ			Vu	
	11	クマタカ		EN	Vu	保存
	12	チュウヒ		VU	R	
	13	ハヤブサ		VU	R	保存
	14	エゾライチョウ		DD	R	
	15	オオジシギ		NT	R	
	16	セイタカシギ		EN	R	
	17	ヨタカ			R	
	18	ヤマセミ			R	
	19	クマガラ	国天	VU	Vu	
	20	オオアカゲラ			N	
	21	アカモズ		NT	R	

表 2-2 後志利別川の特定種-2

分類	番号	種名	特定種指定区分			
			天然記念物	環境省レッドデータブック	北海道レッドデータブック	その他
両生類	1	エゾサンショウウオ		N		
魚介類	1	スナヤツメ		VU	Lp	水産庁：希少種
	2	カワヤツメ			Lp	
	3	マルタ			N	
	4	エゾウグイ			N	
	5	エゾホトケドジョウ		VU	En	
	6	アユ			R	
	7	サクラマス			N	
	8	ヤマメ			N	
	9	イトヨ日本海型			N	
	10	ハナカジカ			N	
	11	ルリヨシノボリ			R	
底生動物	1	コシダカヒメモノアラガイ		NT		
	2	モノアラガイ		DD		
陸上昆虫類	1	イソコモリグモ		VU		
	2	ナツアカネ			R	
	3	ヒメリスアカネ			R	
	4	スナヨコバイ		NT		
	5	スジグロチャバネセセリ		NT	N	
	6	キマダラモドキ		NT		
	7	キバネクロバエ			R	

(出典：河川水辺の国勢調査)

- ・国天：国指定 天然記念物
- ・保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種の指定種
- ・環境庁・レッドリスト(レッドデータブックに掲げるべき日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト) .2000  
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 A類 EN：絶滅危惧 B類 VU：絶滅危惧 類  
 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ・北海道・北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック .2001  
 Ex：絶滅種 Ew：野生絶滅種 Cr：絶滅危機種 En：絶滅危惧種 Vu：絶滅危急種  
 R：希少種 Lp：地域個体群 N：留意種

## 2-2. 河川及びその周辺の自然環境

### ① 上流部

源流部から住吉付近までの後志利別川の上流は山地に連続する自然河岸がみられ、山地溪流の様相を呈している。河床は礫質、河床勾配は約 1/200～1/500 以下である。

植生は木本群落のヤナギ林（オノエヤナギ、カワヤナギ）が、51km 付近より下流（河口付近まで）の水辺及び高水敷に広く分布している。また、人為的影響の少ない崖地には、温帯林の北限であるブナやミズナラ、イタヤカエデ、シナノキ等の自然植生が多く残されている。多年生草本群落は、ヨシ類が全川の水際線～高水敷に分布し、堤防寄りにはオオヨモギ群落、オオイタドリ群落、クマイザサ群落、ムラサキツメクサ - シロツメクサ群落などが分布している。

哺乳類は、ヤナギ低木林の占める高水敷でエゾヤチネズミやキツネ（フィールドサイン）が確認されており、鳥類は、オジロワシ、オオタカ、ハイタカ、クマタカ、ヤマセミ等の特定種が確認されている。魚類はフクドジョウ、エゾウグイやヤマメ等が確認されている。



後志利別川 ー上流部ー

## ② 中流部

中流部にあたる住吉付近から利別目名川合流点（11.5km）付近までは、比較的平坦で河床勾配が約1/500～1/1,400で、瀬と淵が交互に存在している。

植生は木本群落のヤナギ林が上流部より連続して分布しており、崖地にはブナ、ミズナラ、イタヤカエデ、シナノキ等の自然植生が残されている。多年生草本群落はヨシ類が水際線～高水敷に分布している。また中～下流付近には牧草地が多く分布しており、種々の群落に遷移している区域も確認されている。

哺乳類は、草地の広がる高水敷でエゾヤチネズミやキツネ（フィールドサイン）などが確認されており、鳥類はオシドリ、オジロワシ、ハイタカ、ヤマセミなどの特定種が確認されている。魚類は、上流域同様ウグイ、フクドジョウがみられる他、アユ、ウキゴリ等が確認されている。



後志利別川 一中流部一

### ③ 下流部

利別目名川合流点(11.5km)付近から河口までの下流部は河床勾配が約1/1,400~1/3,000で、比較的大きな中州がみられる。また兜野橋(1.52km)より下流は瀬と淵の区別が明瞭でなく、静水面が広がっている。

植生は木本群落のヤナギ林が分布しており、多年生草本群落のヨシ類及び牧草が水際線~高水敷に分布している。また、高水敷にはオオヨモギ群落、オオイタドリ群落、クマイザサ群落が多くみられ、河口部左右岸には砂丘植物群落であるハマニンニク - コウボウムギ群落が分布している。

哺乳類は中上流部同様、エゾヤチネズミが確認されている他、両生類のアマガエルが確認されている。また鳥類はヒシクイ、ミサゴ、オジロワシ、ハイトカなどの特定種が確認されている。魚類はエゾウグイ、ウグイ、サケ、シマウキゴリ、ウキゴリ、アシシロハゼなどが確認されている。



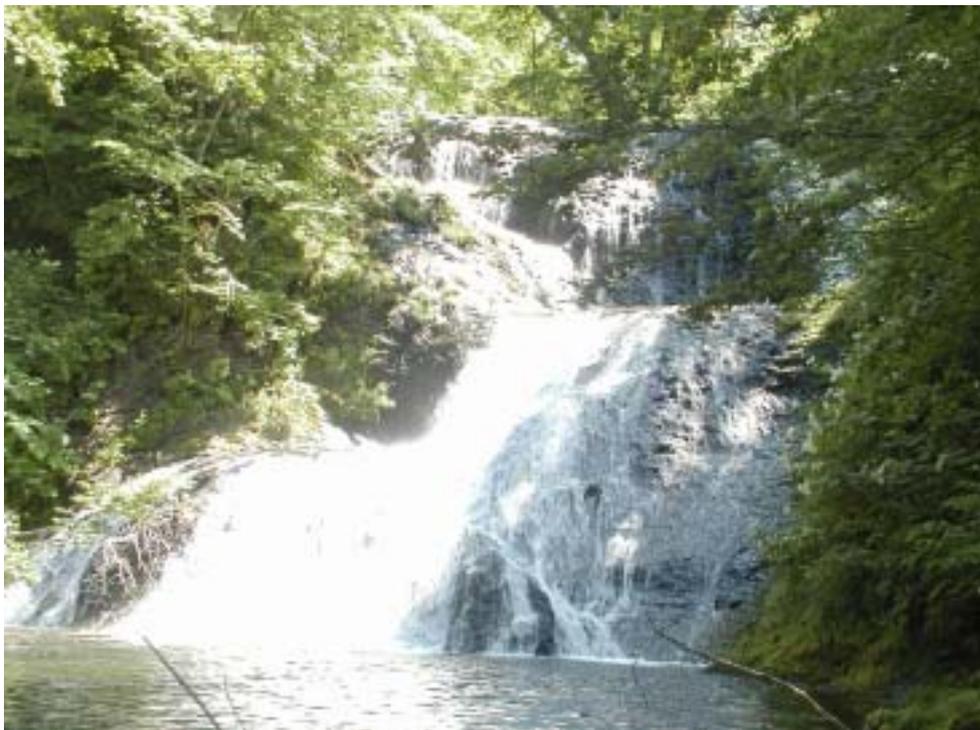
後志利別川 一下流部一

## 2-3. 特徴的な河川景観や文化財等

### ① 景観・景勝地

後志利別川の源流近辺は、渡島・檜山支庁と後志支庁を分ける狩場山地のほぼ東端にあたり、かつて砂金の山と称されたカニカン岳は、景勝地として今では多くの登山客でにぎわっている。ここを下ると今金町の美利河自然二股休養林、奥美利河温泉に近く、さらに美利河ダム周辺には、美利河温泉を中心にキャンプ場、スキー場などが整備されている。この上流域では溪流釣りも楽しめ、渓谷をたどるとオオシュブンナイの滝が美しい姿を見せている。

中流域にかかると、多くの支流と合流して後志利別川はさらに多彩な表情を見せ、支流の一つ、メッブ川を遡ると魚止めの滝が森林の静けさを破る。また、田園地帯に囲まれた「ねとい温泉」は、かつて石油の調査掘削時にわき出たもので、神経痛などに効果があるとされている。南へ支流をたどると山に囲まれてウグイ沼があり、風で動く大小10個の浮島が神秘的な姿を見せる。北は狩場山につながり、途中に紅葉時が美しい熊尻り渓谷がある。



オオシュブンナイの滝

## ② 文化財

### (遺 跡)

旧瀬棚町内では 17 ヶ所の遺跡が発見されている。後志利別川河口近くの南川地区砂丘地帯には、続縄文時代、擦文時代の遺跡がみられる。これらは南川遺跡、南川 2 遺跡、利別川河口遺跡、瀬田内チャシ跡遺跡とよばれ、生活具や墳墓跡などが発掘されていることから、大きな集落があったことをうかがわせる。南川遺跡からは、続縄文時代の恵山式土器を主体に、竪穴住居跡 12、墓跡 60、工房跡 74、竪穴様遺構 6 などの遺跡が数多く確認されており、出土遺物の一部は北海道指定有形文化財となっている。

旧北檜山町では、縄文時代以降の遺跡が 7 ヶ所あり、石器、土器、装身具、武器、敷石住居跡、竪穴住居跡などが発掘されている。後志利別川河口近くの右岸砂丘で発見された瀬田内チャシ跡遺跡は、川に臨む丘陵地形を利用したアイヌの城跡である。ここから 17 世紀初～19 世紀末のものと思われる国産陶磁器、外国産の磁器、農具なども発掘され、アイヌと和人ととの交流をうかがわせている。宣教師ジェロラモ・デ・アンジェリスの『蝦夷報告書』元和 7 年(1621)によると、瀬田内は後志利別川と国縫川を交通路とする交易の地であった。このほか、小川地区からは哺乳動物デスマスチルス(スズメバネ)の歯の化石や、象の化石が見つかった。

今金町には、洞穴、墳墓、遺物包含地、鉱物採掘跡など多量の遺跡がある。洞穴は鈴岡洞窟遺跡、墳墓は中里 1 遺跡、鉱物採掘跡はカニカン岳金山跡、美利河砂金採掘跡がよく知られている。町内では八束、神丘、種川などからの縄文土器の破片、石器の出土が記録されている。特に美利河ダム建設に伴って旧石器が発見されたピリカ遺跡が有名である。この遺跡は面積約 12ha で、当時発見されたものとしては国内有数の大規模な遺跡であった。出土した遺物から数時代にわたる古代人の生活の場であったことが分かっている。また、花粉分析の結果からその周辺にはまばらな森林と草原が広がっていたと推察された。さらに、現在はサハリン、千島、山岳地域に生育するカラマツ属やハイマツなどの樹木があったことも分かり、当時は現在よりもかなり冷涼な気候だったと考えられている。ピリカ遺跡から出土した石器類約 11 万点はすべて旧石器時代のもので、一部は遺跡とともに国の重要文化財に指定されている。昭和 58 年に美利河ダムの測量工事中に発見された化石の一部は、分析の結果全長 10m に及ぶ約 100 年前の大海牛(ステラー海牛)の仲間であることが分かり、「ピリカ海牛」と命名された。美利河ダム周辺では、2 ヶ所の砂金採掘跡も見つかっている。

(文化財)

せたな町の指定文化財は、旧瀬棚町においては南川遺跡出土の遺物(道指定)、荻野吟子遺品・資料(町指定)があり、旧北檜山町においては泡浄瑠璃人形(町指定)、兜(明珍信家作)等がある。

旧瀬棚町の文化財等としては、郷土資料館に、ニシン漁に使われた漁具や作業道具、家庭用品、遺跡からの出土品、文化人の遺品などの史跡が保存されている。史跡は荻野医院跡・運上屋跡・トシベツ渡船場跡などがある。旧瀬棚町には碑も多く、ニシン漁網を波による流失から守るために構築された袋澗の「袋澗記念碑」、医療・厚生・文化の向上に尽くした我が国の第1号公認女医・荻野吟子の顕章碑、「海難慰霊碑」・「殉職消防員之碑」などの殉職碑、慰霊碑がある。また、碑信心の厚い漁師が、夢の暗示でシナの大木から地蔵菩薩像を発見したという伝説にまつわる「シナの木地蔵尊」で、毎年7月に祭りが催される。

旧北檜山町には、遺跡および化石などの出土品のほか、開拓者の家に伝わる古美術品、記念碑、寺社、仏像などが文化財として残されている。

今金町には、平成6年度に国の史跡に指定された史跡ピリカ遺跡と、町指定及び一部が国の重要文化財に指定された美利河遺跡出土品(平成3年度)に代表される埋蔵文化財が豊富である。また、開拓の歴史と信仰にかかわる記念碑や寺社が多く残されている。天然記念物としては、ピリカカイギユウ化石(町指定)があり、中里小学校に復元模型が展示公開されている。

表 2-3 流域自治体の指定文化財の現況

種類	名称	所在及び 指定年月日	概要
国 指 定	久遠神楽	大成区 S59,1,7 指定	武士の奮戦の模様を舞踏化したもので、戦場における、かけひき、戦意を示し、激戦を交えた当時の祖先の勇武を再現し、鎮魂除災の意を含めた踊りで、豊年を祈願している。久遠神楽保存会にて保存。
	史跡 ピリカ遺跡	今金町 H6,4,26 指定	約2万年前から1万年前の旧石器時代の遺跡で、出土した石器の時代的な変遷をたどることができ、また、石器を製作した場所や火を焚いた場所などを良好に残していることがわかっている。
	重要文化財 ピリカ遺跡出土品	今金町 H3,6,21 指定	史跡ピリカ遺跡から出土した、日本最古の玉製品、優美な尖頭器など、石器類163点が指定されている。 ピリカ旧石器文化館において展示、公開
道 指 定	南川遺跡出土の遺物	瀬棚区 S56,3,31 指定	土器25点、石器203点 瀬棚郷土館にて保存。
町 指 定	荻野吟子遺品・資料	瀬棚区 H17,8,9 指定	日本で最初の女医（公認女医）荻野吟子 女史に係る遺品41点。瀬棚郷土館にて保存。
	泡淨瑠璃人形 頭6 足1対	北檜山区 H15,12,25 指定	嘉永元年（1848）から文久年間（1861～1863）の桐造りといわれる作品で、目、眉、口まで微妙に操作できる精巧なものである。明治初期の入植者、西亦広蔵、貞蔵兄弟が、廃業した淡路島的一座より木偶40対を譲り受け、真駒内一座を結成し神社の祭典等で披露していた。この頭6対のうち1対は人形師 天狗久 作で徳島県重要文化財に指定されている。せたな町情報センターにて保存。
	兜（明珍信家作）	北檜山区 H15,12,25 指定	北檜山区丹羽の開拓に入植してきた丹羽五郎（会津藩）が戊辰戦争の際に使用したものである。明珍家は甲冑師となった名家であり、信家は明珍三名人の1人として最も有名であり、数々の名品を残している。せたな町情報センターにて保存。
	青い目の人形	北檜山区 H15,12,25 指定	昭和2年5月10日、日米親善大使の証として「青い目の人形ルイズ・アルコット嬢」がアメリカの子供たちから贈られたものである。パスポートや切符、手紙等も残されており、歴史的にも価値があると評価されている。太櫓小学校にて保存。
	天然記念物 ピリカカイギュウ化石	今金町 H6,12,14 指定	約120万年前の海生哺乳類化石32個他。 復元模型を中里小学校に展示、公開。
	有形文化財 ピリカ遺跡出土品	今金町 H3,5,9 指定	国指定重要文化財を除く約11万点の石器類。 ピリカ旧石器文化館において保管。

（出典：せたな町、今金町資料）

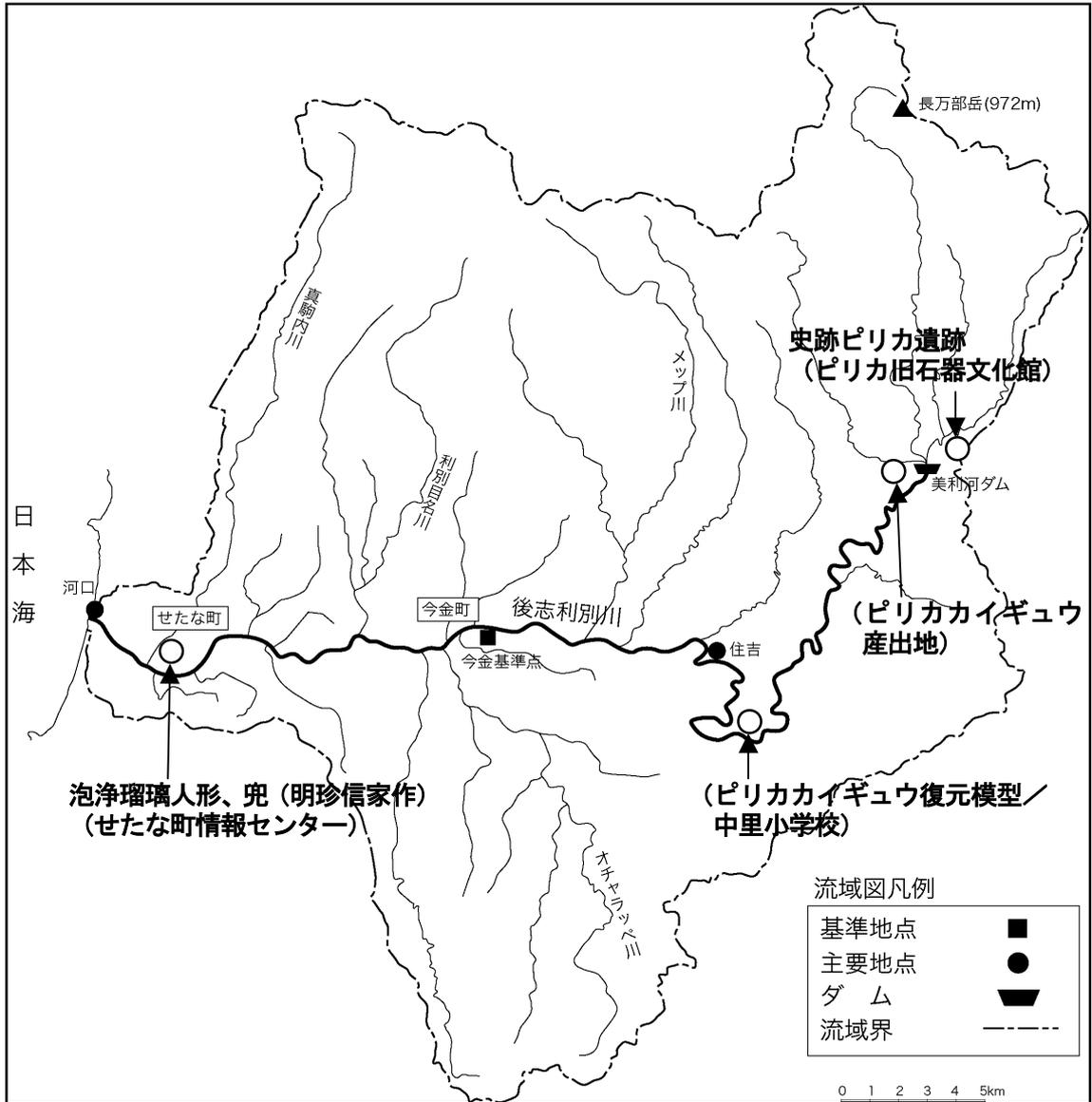


図2-2 流域における指定文化財の現況図

(出典：せたな町、今金町資料)

### ③ 舟運の歴史

後志利別川流域では、管内に古くから設けられていた駅通として瀬棚駅通所が知られており、明治26年(1893)に瀬棚～国縫間の利別山道(現国道230の原型)や、明治33年(1900)に過程県道瀬棚函館街道(現道道八雲今金線の一部)が開通したことによって、より重要な役割を果たすことになる。新しい道路沿いに入植者が増え、交通も盛んになった。

しかし、道路は現在のものとは違って春の雪解け期や秋の大雨時には崩落があるなどまだ不完全で、たびたび改修しなければならなかった。往来する人も悪路にわらじ履きの上、熊の出没にも注意しなければならず、大変な苦勞を強いられた。

道路に馬車が通れるようになるのは明治末から大正初めであり、バスは大正5年に瀬棚～国縫間を運行するようになった。鉄道は昭和4年まで待たなければならない。こうした道路事情から明治20年(1887)代後半まで、後志利別川流域と函館や札幌の道内各地、そして道外を結ぶには海上輸送に頼らざるをえなかった。

後志利別川や太櫓川などの大きな川には橋がなく、渡船場が交通の要衝として大きな役割を果たした。後志利別川水系には、明治7年(1874)から昭和13年までの間に24の官設渡船場が設置されたことが記録されている。瀬棚渡船場のように明治7年から同31年(1898)まで24年間も利用されたものもあるが、大半は比較的短い間に使命を終えている。近距離にあって統合されるか、橋の架設によって不要となるもの、あるいは路線変更などが廃止の理由であったようである。

瀬棚郡虹羅村で入沢藤次郎が営業許可を得ていた渡船場は、両岸に杭を打ってワイヤーを張り、幅7尺(2.1m)、長さ4間(7.3m)の馬舟と幅3尺(0.9m)、長さ3間(5.5m)の磯舟を往復させていた。

利別村(現今金町)では、村営・私設を合わせ、明治年代から終戦後の昭和24年頃まで、延べ14ヶ所の渡船場があった。最も長期間利用されたのは、南金原(現鈴金)地区の村営渡船場で、明治32年から昭和24年頃までの記録がある。

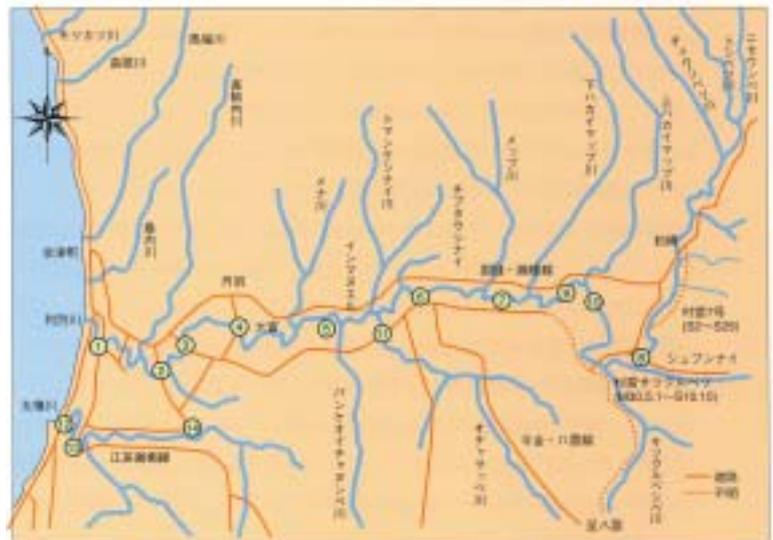


図2-3 瀬棚・太櫓内官設渡舟場位置図

(出典：瀬棚町史)

表 2-4 瀬棚・太櫓内官設渡舟場

番号	所在	設置	廃止	備考・出典
1	瀬棚	明治7年在	明治31.1	函館支庁一覧・渡船場調・道庁広報
2	鯨川	明治42.9.30	大正11.1.26	道庁広報
3	苔谷地	明治36.4.16	明治42.9.3	同上、鯨川に異動
4	丹波大富	明治44.12.1	大正15年在	同上
5	小チャラッペ	明治31.6.3	明治34.1在	同上(昭和12.3頃あったようだ)
6	チブタウシナイ	明治31.6.3	明治33.4.11	同上、今金
	ツレタウシナイ	明治40.3.28	大正15年在	同上
7	メップ	明治33.4.11	明治34.1在	同上、種川
8	シュブンナイ	明治41.5.29	大正15年在	同上(昭和13.4頃あったようだ)
9	上ハカイマップ	明治36.4.16	不明	同上、住吉
10	住吉	明治13.12.27	橋・仮設まで	同上、路線変更
11	オチャラッペ	明治34.10.29	明治40.3.28	同上
12	太櫓	明治7年在	明治27.8.28なし	函館支庁一覧・渡船場調
13	生淵	大正11.6.1	橋・仮設まで	道庁広報
14	サッカイシ	明治37.4.8	不明	同上
	若松	不明	大正5.4.20	同上

(出典：瀬棚町史)

## 2-4. 河川環境を取り巻く背景

人と河川とのふれあい環境としての後志利別川では、その清流を守るための「後志利別川清流保護の会」等の地元活動団体等による河川愛護活動や、川の楽しみを広げる催し、イベント等を行う団体などにより、様々な活動が行われている。なお、後志利別川の年間利用者数は94万8千人（「平成15年度河川水辺の国勢調査」）であり、スポーツ利用が半数以上(54.7%)を占める。美利河ダムでは施設利用(クアブラザ等)が多い。

河川空間の利用に関しては、サケ観察広場、市街地と連携した散策路、桜堤等の住民が川とふれあえる空間や川による地域間交流ができる場が整備されるなどにより、親水性の高い河川として利用されている。

また、ダム区間の利用に関しては、ダム景観・湖景観の眺望と湖水面利用を拠点とし、良好な自然環境の保全を図りつつ、地域のコミュニケーション及びレクリエーション、自然体験学習の場の提供が図られている。



ピリカ夏祭り釣り大会



河川愛護促進パークゴルフ大会



サケの稚魚の放流



カヌー下り

## 2-5. 市民活動

後志利別川流域では川に関わる地元の組織（「後志利別川清流保護の会」）が設立されるなど住民団体が自ら取り組む機運が高まっている地域である。また、小中学校や山村留学等での環境教育や教育の場としての河川利用も図られている地域でもある。

後志利別川流域では、住民とのふれあいを深めるため、「ピリカ夏まつり」「さけまつり」「いいとこ祭り」等の川や地域でのイベントの実施、散策路の維持・河川清掃等への参加や、都市との交流の推進など、住民の積極的な活動が数多くみられる。



後志利別川を美しくする運動



河川清掃



植樹活動



体験学習

## 2-6. 自然公園等の指定状況

後志利別川流域は、自然環境に恵まれた地域が数多く存在しており、これらの保護、保全管理が図られている。後志利別川水系における自然公園等の法令指定状況は、以下のとおりである。

### ■鳥獣保護及ビ狩猟ニ関スル法律に基づく鳥獣保護区

【鳥獣保護区】 北檜山浮島、北檜山玉川、北檜山小倉山、今金八束、今金、美利河ダム

【特別保護区】 北檜山、美利河

### ■国指定天然記念物

後志利別川流域には、国指定天然記念物の区域指定はない。

### ■国立公園・国定公園

後志利別川流域には、国立公園、国定公園の指定はない。

### ■道立自然公園

流域には狩場茂津多道立自然公園が位置する。

狩場茂津多道立自然公園は道南の最高峰狩場山を中心とする山岳地域と、日本海沿岸の海蝕海岸からなる公園である。山間部には、滝、溪流、瀬などが点在し、山麓部に広がる原野と周辺の森林が調和した景観を創出している。海岸部は激しい波浪により形成された急峻な海蝕崖、岩礁などにより変化に富んだ景観となっている。また、流域にはレクリエーションの森の自然休養林として狩場山、美利河二股、風景林として熊尻り、その他として立象山園地施設が指定されている。保護林の森林生態系保護地域が狩場山須築川源流部森林生態系保護地域に、植物群落保護林が種川、若松に位置する。

表2-5 狩場茂津多道立自然公園の概要

狩場茂津多 道立自然公園	町名	区域面積 (ha)			主な景勝地
		特別地域	普通地域	計	
昭和47年 6月23日指定	せたな町				
	旧 瀬 棚 町	4,932	46	4,978	立象山、三本杉、狩場山
	旧 北 檜 山 町	4,083	0	4,083	熊尻渓谷
	檜 山 計	9,015	46	9,061	
	寿 都 町	89	0	89	弁慶岬
	島 牧 村	13,497	0	13,497	賀老の滝、江ノ島海岸
	後 志 計	13,586	0	13,586	
	公 園 合 計	22,601	46	22,647	

せたな町は、平成17年9月1日、大成町、瀬棚町、北檜山町の3町の合併により誕生。